

取扱説明書

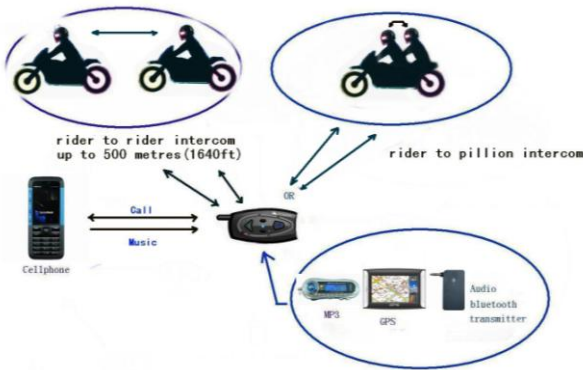
オートバイをご運転する時、一緒に乗った人と話すことは難しいでしょうか？

今から、この新型双方向無線ブルートゥース通信システムにて後部座席の方と話せることになってくる。ボタンを押しなくても携帯電話による通話を受信できて、ブルートゥース GPS 機能システム搭載音声ナビ情報や A2DP 機能搭載携帯電話、MP3 プレーヤーから大好きなステレオ音楽を楽しめられる。

主な性能：

- 2 人のオートバイ乗り者間の最大通話距離は 500 メートルに達し、3 人のドライバー間に通話を確実に実現した双方向無線通信ブルートゥースシステム
- 120km 以上の動作速度
- 7 時間以上の通話時間
- 自動的、安全的に携帯の通話を受信する
- 先進的な A2DP & EDR ブルートゥース機能
- ステレオ音楽/音声機能
- DSP 吸音機能
- 耐水、全天候

1. 製品紹介：



我々がご紹介した通信工具は B（ブルートゥース対応携帯電話）I（インターコム）M（音楽）である。

BIM はオートバイ運転者と後部座席の乗り者に使われています。

BIM はブルートゥース機能搭載の携帯電話、2 つの BIM（2 人の運転者や 1 人の運転者、1 つの後部座席の乗り者、オーディオ機能搭載した内蔵や外付けブルートゥースランスミッタという 4 つのブルートゥース装置から構成された。

BIM はオートバイとスキー愛好者に向け設計した多用途装置で、下記の用途として使われる。

1) ハンズフリー・ブルートゥースイヤホンとする携帯通話装置

外出しオートバイやスキーを行う時、内蔵したブルートゥース機能を自動、安全的に作動し通話を受けられるし、通話を拒否する機能も備えている。

一通話を繋がる時、いずれのボタンを押しなくても、通常のように乗りをし、約 5 秒後、通話が自動的に受けられるし、同様に通話を拒否する機能も備えている。

2) 2 人の運転者の間又は運転者と後部座席の乗り者の間に両方向全二重無線通話を実現してきた。

最大の通信距離はファインビジョン視野範囲に 500m/1640 インチに達した！（最大距離は保証されない）都市内において、一般的な有効距離は約 300m/950 インチである。実際範囲は最終に天気状況、地形、障害物—つまり大型車両や見えない建築物などによって決まった。

3) 無線ブルートゥース音楽受信機とスピーカーとして、本 BIM には EDR と A2DP 機能が搭載されたので、A2DP ステレオ機能付き携帯電話、MP3 や GPS 音声ナビを接続できて、音楽を聞こえられる。

4) MP3 や GPS 音声ナビには音声ブルートゥース送信モジュールを内蔵しないと、ただ外付けたブルートゥースランスミッタを必要とする。AV Dongle が搭載されれば、同様にこの機能をご利用できる。

2. 一部部品の構成

部品名	番号
BIM 本体	BIM-001
クリップ	BIM-002
オーディオプラグインユニット	BIM-003
USB 交流充電器(AC110V-220V / DC 直流出力 5V)	BIM-004
説明書	BIM-005

主要 BIM 通信部分



本体と接続したクリップ



クリップ

オーディオプラグインユニット



使用前：BIM に充電する

当該装置を使用する前に、BIM 主設備に充電してください。

当社は USB ポート付き充電コードを提供し、外出旅行をする。USB ポート付き充電コードと交流電圧充電器を利用できる。

USB プラグの充電コードを充電器に差し込んで、小さいソケットをイヤホンと接続することにより、コンピュータや AC 設備を通して充電できる。

- 1) 充電時、イヤホンの赤ランプが点灯するが、充電が終わると、赤ランプが消灯している。

ヘルメットに BIM を着脱する

BIM を着脱することはドライバーが必要である。

手順：

- 1) ヘルメット左側に対応した位置を見つけて、にクリップを入れる。
- 2) ヘルメットのケースと泡沫の間にクリップを差し込む。
- 3) BIM 本体をクリップにしっかり固定する。

ヘルメット左側に対応した位置を見つけて、クリップを入れる。



BIM はヘルメットに取り付けられる

2 個マイクロホンが付属される。

システムはイヤホンに固定したヘッドセットに依存し、これは最適な騒音無し音声と受信信号を提供している。

1) ヘッドセットの位置を見つけているように、ヘッドセットをヘルメットに先に固定しなくて、拇指で耳がヘルメットとの位置を調整し、指をヘルメット外部と耳の間に入れてから、拇指が耳とヘルメットの間的位置を調整する。ヘルメットを注意深く脱んでいるが、ヘルメットとイヤホンの間に入れた拇指を移動しない。ご拇指の位置を見て、これはイヤホンの最中位置である。イヤホンはこの箇所に固定してから、ヘルメットに放置し、多側では一致であるかと確認し、そうすると通話することができる。

2) ベルクロ付きの保護シートを取り外し、ベルクロを正しい位置に貼り付けてからヘルメットでの 2 個スピーカをしっかりと取り付けている。短いスピーカは左耳に、長いスピーカは右耳に使われている。



左右用短いスピーカ

右耳用長いスピーカ

マイクロホン位置の調整

注意：外部からの騒音を減らすように、オートバイ乗り時に、ヘルメット遮光板を閉める必要があるし、マイクロホンの発泡体をご唇と接触させるように、マイクロホンをご唇の右前方に調整してください；遮光板はマイクロホンを有効にカバーしていること！（風による騒音を最大限に減少する）



V

X

正確 マイクロホンの位置 間違い マイクロホンの位置

3) 固定済みのイヤホンを通信モジュールに差し込んでいる上、ヘルメット側に貼り付けている。

3. 操作

初回使用時、先にBluetooth携帯電話とマッチさせてください。

注意：必ずBluetoothをアクティブにした携帯電話にて BIM とマッチさせている。ドライバーは後部座席の乗り者は異なる時間でそれぞれの携帯電話をイヤホンとマッチさせること。

初回利用前、先に BIM をご携帯電話をマッチさせてください。通常にご個人携帯電話は一回のみ設置すればいい。携帯電話メーカーから提供した説明書手順に従ってマッチング設置を保存した後、携帯電話と BIM が再度に接続可能な範囲に放置されるたびに、自動的に繋がっていることになる。

- 1) 携帯電話でのBluetooth設備をごスタートする。
- 2) 赤と青 LED が交替で点滅するまでイヤホンでの電源/トランシーバボタンを押すことにより BIM を「マッチモード」にされなければならない。
- 3) 携帯電話操作ガイドに従って、携帯電話の「Bluetooth設備を検索する」を運行する。
- 4) BIM が検出されると、携帯電話には MOTOR PHONE が表示され、この接続を選定してから受け取る。
- 5) パスワードを入力し接続をスタートする。パスワード：0000（4 個零）。
- 6) ご携帯電話はマッチングが成功にしたと確認できる。現在の携帯では青ランプのみ作動し、かつ 5 秒ごとに一回点滅すると注意してください。

基本の BIM 操作

開く 青ランプが点灯するまで電源/トランシーバボタンを連続的に約 6 秒を押してから、快速に電源/トランシーバボタンをフリーにした時、青ランプは 5 秒ごとに一回点滅している。

閉じる 青ランプが点灯するまで電源/トランシーバボタンを連続的に約 6 秒を押してから、快速に電源/トランシーバボタンをフリーにした時、青ランプは消灯している。又は直接に「RESET」ボタンを押すことにより快速にシャットダウンする。

ボリューム UP V+ボタンを短く押す

ボリューム DOWN V-ボタンを短く押す

携帯電話との接続 ある場合（例えば、高強度ラジオ周波数区域）に、BIM は携帯電話との接続を断接する可能性があるため、携帯電話/再生ボタンを短く押すと、再度に接続できる。

安全な携帯電話通話機能

1) 自動的に携帯電話を受ける

携帯電話が掛けられた時、鳴る音を聞こえられた 3-5 秒後、BIM は自動的に通話を受けることにした。

2) 通話を切る

通話を中止する時に、携帯電話/再生ボタンを短く押すと通話が中止される。

3) 通話を拒否する

携帯電話が掛けられた時、鳴る音を聞こえられるが、すぐに携帯電話/再生ボタンを 1 秒押すと、通話が拒否されている

4) 携帯電話で電話を掛かる

携帯電話で正常に電話を掛けると、（ドライバの場合、当該機能をぜひ利用しないでください。後部座席の乗り者のみ利用できる）、音は自動的にイヤホンに伝えている）。

5) 前回に掛けた番号を掛ける

携帯電話/再生ボタンを 2-3 秒押しと、前回に掛けた番号を自動的に掛けています。(注意：一部の携帯電話は当該機能をサポートしない)

トランシーバー機能

オートバイ間やオートバイドライバが後部座席乗りととの間に内部通話を確立する

マッチングは時間過程で、イヤホンが他のBluetooth装置と相互に識別する必要があります。二対のイヤホンが成功にマッチさせると、一定の範囲においてマッチング状態をいつも保持してきます。

同じ時間においてトランシーバーのみで同士者と連絡できる。

1) 他のオートバイドライバとのマッチング

赤ランプと青ランプが同時に点滅するまで、マッチング済みの 2 個 BIM 電源/トランシーバーボタンを同時に押す。中の BIM の電源/トランシーバーボタンを短く押しすると、赤ランプがすぐに消灯すると共に、青ランプが 2-5 秒ごとに一回に短く点滅したら、マッチングを成功に完成してきた。

2) 他の 2 人のオートバイドライバとのマッチング、そしてどちら方との通話を選択する

ご BIM を主設備として設定したら、他の 2 人のオートバイドライバの BIM とマッチさせられてから、他の 2 人と異なった時間に通話できる。

手順: 上記 1) の通り、ご BIM (BIM a) を 1 人の BIM (BIM b) とマッチさせてから、(BIM b) を OFF にした後、ご BIM (BIM a) をもう 1 人の BIM (BIM c) とマッチさせる。マッチングの手順を完成すると、BIM b を ON にできる。

インターコム通話を開始すると (BIM での電源/トランシーバーボタンを短く押し)、BIM c と通話できる。ただし、電源/トランシーバーボタンを長く押しすると、アラームの警告音を聞こえられて、すぐに手を離れて、BIM b との通信交流を変える。

音楽機能

1) 携帯電話 A2DP が作動していた状態でステレオ音楽を試聴する

携帯電話のユーザーマニュアルをよく読んでください。ご携帯電話の A2DP がアクティブにされると、BIM は携帯電話中でのステレオ音楽を受信できる。

注意：A2DP 機能 (ステレオBluetooth) を搭載した携帯電話のみはBluetooth音楽転送サービスを提供できる。A2DP Bluetooth 設備を利用して、携帯電話/再生ボタンで音楽を一時停止/再生できる。

2) 有線方式で MP3 のステレオ音楽を聞ける。

BIM のプラグコード (スピーカとマイクロホンコード) は 3.5mm で、MP3 のソケットに差し込んでいるので、これを MP3 に差し込んでから MP3 を再生し、MP3 のステレオ音楽を聞こえられる。

3) 優先方式で GPS ナビ情報を聞こえる

方法は MP3 で音楽を聞くと同様である。

自動的に他のモードへの切り替え

内部通話や音楽を聞く時、携帯電話は掛かれると、音声は自動的に「携帯通話」モードに切り替える。電話を切る後、システムは自動的にトランシーバー通話や音楽再生モードに戻す。音楽を聞く同時に、電源/トランシーバーボタンを短く押しと、トランシーバー通話を作動させて、通話が終わってから、システムは自動的に音楽モードに戻す。

注：通話が終わった後、自動的にトランシーバー通話モードに戻す時間は 5 秒必要してかもしれない。

トラブル・シューティング:

1. 作動しない

バッテリーの原因で、BIM に 3 時間充電する

2. 音声無し

イヤホンコードは良いかと外観から検査し、BIM の他の機能と交換し、問題を更に発生させる。

3. 通話中騒音がある

マイクロホンが受話器に近く過ぎていたり、受話器には騒音が発生し、マイクロホンを受話器から少し離れば、OK。

5. 携帯電話や音楽が断接される。

あるの原因により (例えば、一部地区では高強度電波周波数がある)、BIM は携帯電や音楽との接続を一時的に切断してかもしれないが、電話/再生ボタンを押しと、互いに繋がっている。

6. ご携帯電話と接続できない

この BIM は主要なブランドのBluetooth機能付き携帯電話と接続できるのに、すべての携帯電話と接続できることは保証されないので、購入前に、ご携帯電話と接続できるかと確認してください。

7. オートパワーオフ

携帯電話掛け、トークバック、音楽の使用に対して、BIM は異なったBluetoothファイルを設置する必要がある。異なった機能を切り替える時、異なったファイルを対応的に配置している。

ある携帯電話には標準的なBluetoothファイルを設置されないで、BIM と接続する時に、BIM が 3 つの異なった状態で切り替えることにより、BIM を OFF にする場合もある (掛け、トークバック、音楽)。

この場合で、BIM を再度 ON にし、電源/トランシーバーボタンを押しと、2 つの作動モードのみ確認する。

一般特性

携帯電話まで接続すると、7 時間の通話時間がある。

音楽を連続的に 7 時間を聞こえられる。

電力消費：55~75 mA

500mA リチウムポリマー電池

待ち受け時間：240 時間

充電時間：~3-6 時間